



図書館だより



東京商工会議所経済資料センターを見学

東京商工会議所経済資料センターの概要

同センターは千代田区丸の内内にあり、経済分野の専門図書館として、経済・産業・経営に関する多数の資料が所蔵されています。業界新聞や社内報も充実しており、全国の電話帳、業界団体名簿、社史、各地の商工会議所の会員名簿、官庁の統計類なども揃っています。

蔵書（新聞・雑誌を含む）は和書約12万2000冊、洋書約1万3000冊で、受入資料は購入資料よりも東京商工会議所会員企業等からの寄贈資料の方が多いという特徴があります。総スタッフは6名、1日あたりの利用者数は約33～34名です。

所蔵資料は閲覧室で自由に閲覧できるもの（開架資料）と、書庫に収納されていて、カウンターでスタッフに依頼をして出納してもらうもの（閉架資料）とに分かれています。

利用にあたっては、初回に手続きをして「閲覧室利用登録者証」の発行を受ける必要があります（東京商工会議所会員・一般ともに無料）。毎回の利用にあたっての入館料は、会員は無料、一般利用者は200円です（会員・一般ともに館内での閲覧・コピーサービスのみで、貸し出しは行なっていません）。

詳しい利用案内は、東京商工会議所のホームページ <http://www.tokyo-cci.or.jp/> で紹介されています（合同図書館ホームページ中の、類縁機関案内でもご紹介しています）。

また、所蔵資料の検索も、ウェブサイト上で行なうことができます。

「業者名簿・信用録」「新聞」「雑誌」「統計・年鑑類」「人名録・会社録・商工名鑑」等の利用が上位を占めていて、弁護士業務においても、業界の動向や市

場分析などの資料が必要な際には利用したい専門図書館の1つだといえます。

見学会の感想

東京商工会議所経済資料センターの方から、2002年6月から2004年3月まで、東京都の委託で東京商工会議所に試験的に設置されていたビジネス支援ライブラリーとの連携の実態も含め、資料センターの利用状況・運営状況などについて詳細な説明を受けました。普段は入ることのできない書庫にも案内され、閉架資料を直接書棚で見る機会を得ました。

レファレンス（文献調査）について、利用者が何を探しているのかを「ききだす能力」がスタッフに求められている、スタッフの能力アップのためには、オンザジョブトレーニングが基本であるといった説明を受け、合同図書館でのレファレンスサービスも全く同様であると感じました。

限られたスペースで幅広い資料を利用者に提供するため、資料ごとに保存年限を永久・5年・3年・1年・3か月などと決め、保存年限ごとに色分けをするなどして所蔵資料を整理・配架している点も印象に残りました。

また、利用者へのアピールのために、新入職員向けに研修や模擬レファレンスを実施しているとのことでした。

合同図書館も、利用者に上手に活用してもらい、業務に役立ててもらおうことで、その重要性・存在意義をアピールしていくことが重要であると感じました。

（東弁・二弁合同図書館委員会副委員長 甲斐順子〔二弁〕）